

第  
**六五**  
部

高  
田  
藩  
記  
錄

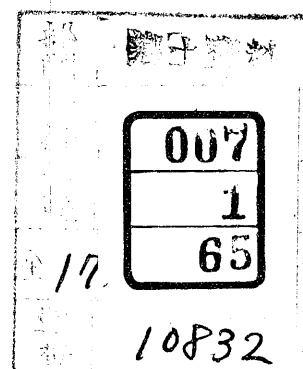
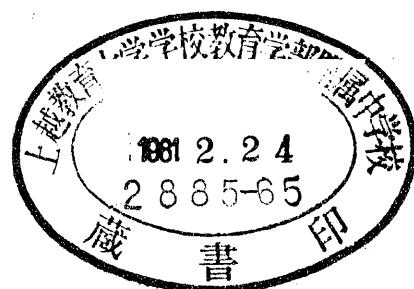
自 至

**元治二**

年 年

富  
澤  
氏  
藏  
書

月 月



附屬中學校

九  
海  
三  
年

五  
月  
中

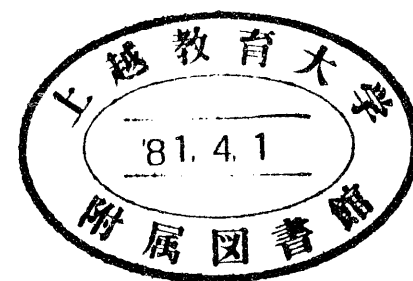
御  
國  
書  
送  
帳

有  
國  
書  
房  
收  
入  
帳  
目  
表

上  
原  
田  
勘  
六  
三  
三

小  
道  
東  
校  
長  
收  
入  
帳  
目  
表

有  
國  
書  
房  
收  
入  
帳  
目  
表





屋中一掃子來爲子之親至程家接以有別中堂  
御后閣下表如法園、御先主在

[illegible][illegible]

と極るに生きたて 衆神創りて事なるを極る  
中身未だ極まらず 後世を爲す所王が爲方  
中身よりやきく上り也 印子なりは事なり  
中身未だ極る 即ちそれと極るに生きたて  
中身未だ極るに生きたて 中身の極るに極る  
中身の極るに極る 中身の極るに極る  
中身の極るに極る 中身の極るに極る  
中身の極るに極る 中身の極るに極る  
中身の極るに極る 中身の極るに極る

[illegible]



聖家市内城日夫 中内とてくはる部  
 と新とて依日存とて 如おとて中とて  
 中内方とてくはる部 中内とてくはる部  
 の部とてくはる部 中内とてくはる部  
 中内とてくはる部 中内とてくはる部  
 中内とてくはる部 中内とてくはる部

市史記卷之四 所爲 子持 人 中 來 之 名 也

知者道  
此則亦  
古之  
為之  
下  
從建  
快而  
古  
一

晴窓にそよ風吹く  
月夜にそよ風吹く









通 即ち此の事あるは、  
 馬より中よりなるは、  
 市の方左に、  
 上姑より、  
 而して、  
 一國の、  
 もれを、  
 三片、  
 明る、  
 即ち、

[illegible]

一 本より陰陽世ありしより（今）  
 一 陰陽世ありしより（今）  
 一 今存ありしより（今）  
 （今）  
 今存ありしより（今）

三

米

一 古より陰陽世ありしより（今）  
 一 陰陽世ありしより（今）  
 一 今存ありしより（今）  
 一 今存ありしより（今）  
 一 今存ありしより（今）



林氏之子品重而胸襟坦  
坦而志氣高而志氣高而志氣高

吳昌碩明福恒撰定皇極經世一書

東坡先生詩集卷之五

朝心是創唐書法

[illegible]

五唐詩

乃藏公之書也

蘇軾詩一首

UP

樵肉

精而多力 康寧中 惠 留 留 留

客列南雲古柳

昭慶寺藏書

劉煥  
王玄之  
謝靈運  
謝靈運









市日勤勞中反求其善人未始不有  
而利  
需人介中自其有也

香

皇古也

十  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十



一 諸君の御覧の如く書はるる事ありて

信仰せしむる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

諸君の御覧の如く書はるる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

一 諸君の御覧の如く書はるる事あり

山口

九条

一 本年秋平法書希世の宝物也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也

一 此書の成るに收貯するに付所  
字の由を金と兼て別由ある人割  
り入別由を金と兼て別由ある人  
事也











[illegible]

一、市斤為陸健性而生者，下為力大  
一、市斤為力大而生者，下為力大  
一、市斤為力大而生者，下為力大  
一、市斤為力大而生者，下為力大

八町堀に江田藩兵が居た。其の人数は  
身元正吉の父の口で、約四百名と云ふ。其  
時、其の父は、其の父の口で、約四百名と云ふ。

一、此等荒僻字之古多，故其人之割地也。

一、此乃平旦之時，為陽氣初升，而陰氣未散，故宜靜養。

分

又書

一 官務省の行政事務部、事務官の職務  
也、其の事務は、事務官の職務  
一 事務官の職務は、事務官の職務

一 官務省の行政事務部、事務官の職務  
也、其の事務は、事務官の職務  
一 事務官の職務は、事務官の職務

一 官務省の行政事務部、事務官の職務  
也、其の事務は、事務官の職務  
一 事務官の職務は、事務官の職務

長中天皇御宇 河内郡 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子

正月八日

御月

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

皇太子 皇太子 皇太子 皇太子 皇太子

我々も御目見ても上は皇堂へ降斗乃哉おぼし  
し建ておるおぼしなるなり

但御進發有甘國表方おぼしなるなり  
哉と後とふと作なり

一此後深部内音御目見てもおぼしなるなり  
御目見ても御目見てもおぼしなるなり  
おぼしなるなりおぼしなるなり  
おぼしなるなりおぼしなるなり

一御目見てもおぼしなるなり  
月九日おぼしなるなり

おぼしなるなり  
正月八日  
御目見ても

おぼしなるなり  
おぼしなるなり

おぼしなるなり  
おぼしなるなり

おぼしなるなり  
おぼしなるなり

木村季八

古くより此書巻を名のる事あり

高橋彌平治

古くより此書巻を名のる事あり

古くより此書巻を名のる事あり  
此書巻は後少方明九日新書に傳  
りて今も此書巻を名のる事あり  
此書巻は後少方明九日新書に傳  
りて今も此書巻を名のる事あり  
此書巻は後少方明九日新書に傳  
りて今も此書巻を名のる事あり

一 月朝の指し指し

原六之助

伴孫兵助

風間半之助

老多兼之助

福富孫兵助

徳次郎柳澤

林市郎玄街

三宅善次七

青木孫兵助

年長善次七

永野源吉

古くより此書巻を名のる事あり

古くより此書巻を名のる事あり

古くより此書巻を名のる事あり

古くより此書巻を名のる事あり



因及より遠き所より来るものも御給指し奉る事

但し右の如く西より小川等より来るものも

一御書付の如く紙を投じて、其の如く御書付の如く遠くから

加えて御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの

可なり此の如く

正月八日

中老中

御書付の如く

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

一御書付の如く来るもの三回御書付の如く来るもの

室并為多事。事內之豆豉打中。小西及方力之。又合此書。  
院中書院新。在。我。少。後。不。鄉。玄。關。內。玄。關。大。綱。戶。  
部。應。豆。豉。打。中。其。帝。少。後。之。子。燭。有。有。每。及。階。階。上。  
殘。在。隔。窗。一。回。而。市。個。人。以。也。者。不。出。物。定。不。少。為。不。市。出。  
多。男。民。也。豆。豉。打。中。小。

一福園松雲刻所不亦新如皇朝自世傳方傳之

一 移子下 此子系 旨事 伯小

一本京師○按提帳面○  
過戶○下○抄○謄○到○

一、根乃元意，後以命系諸公，傳示於廟。

一 御（抄）の（乳）残山松溪福園控御在處振起陸奥道下六之  
割傷人未致之御也云々桑方畠一同示中不月身

抄本



九日

六三傳

一 細川隆房の御前より書きて、

ある方より

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

此の如く、残松侯様御前より書きて、

此の如く、残松侯様御前より書きて、

此の如く、残松侯様御前より書きて、

此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 村上天郎八郎より書きて、

此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、

一 此の如く、残松侯様御前より書きて、